

学校教員 2013年度

A. A. さん (体育・健康教育コース)

滋賀県小学校 合格

1) はじめに

私は今年度、教員採用試験と大学院入試の両方を受けました。この合格体験記を書くにあたって、私に求められているのは、その両方を受けた者としての体験記を語ることだと思います。したがって、なぜ両方を受けようと思ったのかについて述べます。

第一に、私は教員採用試験を受けるにあたって迷いがありました。それは今の自分にはまだ教師をする力量がないと感じていたからです。もっと教師としての能力と資質を磨くことが自分には必要だとも思っていました。それが4月でのことでした。そのあと、5月に教員採用試験実施要項を手にして読んでいたとき、「大学院進学者に対する特例」というのを見つけました。それは教員採用試験に合格した者の中で、修士課程修了を希望する者に対して、最大2年間採用を延期するという制度でした。それを見たとき、この制度を利用すれば、教師をするまで2年間の準備期間が自分には与えられるのだと知りました。そういうことから、教師になるための資質・能力の向上に向けて、是非この制度を利用しようと考えました。

第二に、この制度を利用するにあたって、将来の人生の道筋を考えました。近年、教師の専門性が重要視されていることから、大学院で教育について今まで以上に深い学びを経験していきたいと思っています。また修士論文を書くことによって、さらにコンピテンシーを高めることができると考えています。一方で、大学4年間の勉強を経て教師になった人たちは、私より2年間多く実践を積んでいるということが明らかです。実践経験をより積むのか、2年間の研究を経て現場にでるのか、という教師人生の道筋においては違いがあります。私は後者のほうですが、大学院卒業後に教師になることが決定していることから、この2年間でどう過ごすかがポイントになってきます。研究という側面から教育を深く追求し、現場に出たときにそれが活かせるように、2年間での学びを大切にしたいと思っています。

第三に、この制度をこれから利用する者としての思いを語ります。実際、この2年間でレベルアップした自分になれるのか不安です。この制度が本当に功を為すのかはまだわかりません。周りの人にはこの制度を話すと、皆にいいなと言われます。この「いいな」と思われる経験を積むことが出来れば、実感を伴ってこの制度の本当の意味を知ることにつながると考えています。

2) 一次選考について

- ・ 集団面接・集団討論 (7月13日または14日)
- ・ 筆記試験 (7月21日) [一般教養・教職教養、専門教養、小論文、適性試験]

これらを選考基準として、量的と質的に分けてみます。教養は量的選考で、教師の能力にかかわります。小論文、面接、討論は質的選考で、教師の資質にかかわります。一次試験では筆記試験の勉強はもちろん大切ですが、やはり教師の資質としての探究心や教育観、対人関係が大きく問われると思います。小論文、面接、討論をおろそかにしないことが重要です。受かるために考えた原稿で向かうのではなく、教師になってほしいことのビジョンが見えているかどうかを追求して、試験に向かってください。

3) 二次選考について

- ・ 個人面接
- ・ 模擬授業
- ・ 音楽実技
- ・ 水泳実技 (50m)
- ① ピアノ (共通課題曲)
- ② リコーダー (初見で演奏及び音階で歌う)

③歌唱教材のアカペラ

一次試験が終わってから、選考結果がでるまでは時間がかかります。私は一次試験が終わると同時に二次対策を始めました。滋賀大学教育学部では教員採用試験を受けられた先輩方から都道府県別の過去問題集をいただくことができます。小論文や面接、模擬授業は過去の問題からも頻出していました。感謝の気持ちをもってフル活用しましょう。

個人面接では集団面接の時よりも質的側面を問われます。私は自分の思いを簡潔に述べるのが苦手でした。だらだらと長く話しては、何が言いたいのかが伝わらないので、短い言葉で的確に自分の思いを表現する練習が必要だと思います。模擬授業では教科指導の知識・技術、課題達成の技能があるかどうかをみられます。私は、同じ教科で授業をする仲間とともに指導案を作成し、授業を見せ合って、授業力量の向上を目指しました。授業をする上で大切なことは、子どもに一番伝えたい中核になる目標を明確にして授業を展開することだと教わりました。授業に一本の筋道をつくり、課題解決に向けた内容を肉付けしていきます。明るく堂々とした態度で授業をするのは当然クリアしないといけないことなので、こちらにも質的に授業を模索しましょう。

5) おわりに

今回、このような体験記を書かせていただく機会をいただきましてありがとうございます。読んでいただきましたみなさんに、教員採用試験の準備への何らかのアドバイスになればと思っています。

はじめに言ったように、私は大学院に進学します。もし、みなさんも大学院に進学し自分の研究をもっと極めたいと考えておられましたなら、この制度の利用を考えてみてください。皆さんに伝えたいことは、採用試験に受かるまでがゴールではないということです。成長し続ける教師となることが目標であり、日々のリフレクションが成長につながると考えています。教師になるという覚悟を持って、教員採用試験を受けてください。

最後になりましたが、みなさんに笑顔の結果が届くことをお祈りしております。

A. K. さん（芸術表現教育コース） 京都市中学校（音楽） 合格

【はじめに】

私は社会人としての経験をしてから滋賀大学に入学しました。大学入学の時点で、教員免許を取得し、将来的に教員になるという強い目的を持っていたので、教採を受験することについての迷い等はありませんでした。しかし、センター試験を経て入学した人たちに比べて私は、いわゆる知識的な勉強からは長年遠ざかっていたので、その点で圧倒的に不利だと感じていました。また、就職する自治体には特にこだわっていなかったのですが、就職の可能性がある全自治体の募集要項を細かくチェックして、社会人としての経験を考慮した特例選抜「社会人チャレンジ制度」を実施している京都市での受験を決めました。地元での就職と決めている方は、その自治体の試験方式に何とかして対応していかなくてはならないと思いますが、一度近隣の自治体の要項もチェックしてみて、自治体のニーズに答えつつ、自分の経験や資格が活かせるような特例制度を活用してみるというのも、一つの手ではないかと思います。こういった特例選抜や優遇措置を行う自治体は年々増加の傾向にあるようです。この事実は、いずれの場合にしても、知識だけにとどまらない様々な経験や柔軟な思考を持った人材が求められているという事なのではないかと思いますので、そのあたりの事を考えながら、教員採用試験の準備を進めていかれたら、きっといい結果につながるのではないかと思います。

【提出書類について】

私は、提出書類というものはかなりの重要度があるものだと思って準備をしました。丁寧に書く、記入漏れの注意、といった基本的な事はもちろんですが、京都市は志願書の自己アピール欄や「子どもたちに伝えたい私の感動体験」の事前資料など、他の自治体と比べても個性をアピール出来る場が多いと思うので、それを最大限に活かしていった方が良く考えました。例えば、写真は出来るだけ爽やかな印象を与えるように笑顔で写っているものを選びましたし、感動体験の資料はパソコンを使い、写真を多用して全体のレイアウトやデザインも工夫したものを何パターンか作成し、それを美術教育コースの友人に見て選んでもらって、さらにアドバイスをもらって手直ししたものを提出しました。自己アピールも、教職実践論の担当の先生にご相談してアドバイスを頂きました。願書等をただの書類だと考えると、こういった細かな事は大変な手間だと思われるかもしれませんが、自分の個性を表現する場だと考えると、かなり重要な意味を持つてくると思うので、一考の価値があると思います。

【1次試験】

● 個人面接（10～15分程度）

1. 私の感動体験（2分間）

事前資料に記載した文章を、2分間で分かりやすく伝えられるように要点をまとめた文章を作成し、タイマーなどで時間を計りながら余裕を持って終われるように何度も調整を繰り返しました。ここでは、試験官の方々は生徒に話しかけている時の様子がどんな風なのかを見たいのだと思われるので、実習の時の事などを思い出して「生徒に話しかける」ということを意識しながら何度も練習しました。独りで練習している時と人に聞いてもらう時とでは緊張度が格段に違うので、人前で練習する回数を重ねることをお勧めします。また、ゆっくりはっきり話すための滑舌練習を行うことも非常に効果的だと思います。

2. 個人面接

知人の教員の方から、面接で必ず聞かれる質問は「なぜここ（京都市）を受験したのか」「大学ではどんな勉強してきたのか」「どんな教員になりたいのか」だと聞いていたので、その答えだけは絶対にスムーズに答えられるように準備し、あとはほとんど教職実践論でやっていただいたことだけで準備しました。

実践論では模擬面接をして頂く機会があったのですが、文章での質問と違い「面接」というだけで緊張して焦ってしまう事を体験できたので、質問された事を全部メモして、スムーズに答えられなかった事を中心に、もう一度落ち着いて考えたらどう答えるかや、自分の考えが浅かったと感じた事柄などを文章にしてみたりしました。

最終的には、自分という人間がどういう経験をしてきてどんなことに興味があり、教員としてどうしていきたのか、といった自分の事をよく理解できていれば焦ることなく質問に答えればいだけだと感じました。

● 筆記試験

- 一般・教職教養筆記⇒社会人チャレンジ制度の利用により、小論文試験（30分間）

過去5年間の出題をチェックしたところ、ほぼ毎年「社会人としての経験をどのように現場で活かしていくか、自身の経験を絡めながら述べよ」といった出題傾向だったので、事前に基本の全文を作成し、当日の出題に合わせて導入部分だけを変えられるように準備しました。文章の内容は、教職実践論の担当クラスの先生に見て頂き、アドバイスをいただきました。

- 専門教筆記（30分間）

とにかくあるだけの過去問を解きまくっていました。そうすると近年の出題の傾向が分かってくるので、今度はその中で苦手な部分を補えるように集中して勉強しました。基本的には、教科書の内容と学習指導要領を隅々まで熟読する事と、吹奏楽などで使われる総譜が読めるようにしておいたら、大体の問題には対応できると思います。また、京都市は放送問題があるので、教科書に付属している参考音源CDなどをひたすら聞き、ランダム再生してイントロクイズのようになしたり、合唱曲を聴いてパートごとのメロディーを聞き取れるように練習しました。

【2次試験】

過去問題集には、音楽科の2次試験についての情報がほとんどなく、最初は準備出来ることが少ないと思っていましたが、京都市役所で過去問題のコピーサービスをしている事を知り大いに活用しました。そこで筆記試験・論文試験・集団討論のテーマ・模擬授業の出題内容や指導案の様式・使用された教材（教科書のコピー）・実技試験の課題（弾き歌い・新曲視唱）が閲覧・コピーできるので、早めに行って多くの情報を集めることをお勧めします。

● 集団面接

これも、ほぼ教職実践論で練習したことだけで準備しました。そこで、自分1人で考えていたら思いつかないような発想や意見を聞いたことは、非常に役に立ちました。また集団面接では協調性も見られているという事で、主張するばかりでなく、一つの意見を発展させてより良い解決方法を見つけられるように、流れを持っていけたらいいのではないかと思います。

● 指導案作成（80分間）・模擬授業（8分間）

京都市の教採ではこの模擬授業の配点が一番高いので、緊張しすぎずやりたいと思っている授業の様子を本番で出せるように、京都市受験組で集まってお互いに授業し合ったりしながら何度もシュミレーションして準備しました。

指導案作成は、時間的に余裕があるので、落ち着いて丁寧に書いて大丈夫だと思います。京都市の基本的な指導案の書き方のモデルは『京都市スタンダード』という冊子が作成されており、京都市教育センターに行けば閲覧・コピーができるので、そこで出題されそうな部分をコピーし、自分でも実際に指導案を書いてみました。（当日の『京都市スタンダード』の配布はありません。）

模擬授業では試験会場にピアノが用意されていないので、8分間で指導案のどの部分をやるのかについて少し注意が必要です。また、他の受験生の方が生徒役をしてくれますし音楽は実技教科なので、活動を多めにした授業をした方が良いと思います。（ちなみに私は、試験会場にピアノがないのを知らず、課題教材の「赤とんぼ」を歌う活動を入れてしまっていたので、生徒役の人に無理やりアカペラで歌ってもらいました。）

● 小論文（1200字60分）

京都市では前年まで1200字40分だったようで、かなりきついと思っていましたが、今回は60分だったので予想していたよりも落ち着いて書くことが出来ました。内容については、教職実践論で宿題として出題されたテーマについて毎回しっかり取り組み、自分の考えを深めていくことが、本番で役に立ったと思います。出題されそうなテーマごとに、箇条書きでポイントを挙げておいた論文カードを作っておくと、考えが整理しやすく、内容を思い出しやすいです。

● 実技試験

私はピアノが得意ではなく全く自信がなかったので、ピアノ独奏はとにかく何度も弾き込みました。弾き歌いは、主にゼミの先生に見て頂きました。巧い演奏をすることよりも授業で弾いているというシ

チューエーションを想像しながら、生徒が歌いやすい様な雰囲気心を心がけて、笑顔で歌えるように何度もシュミレーションしました。弾き歌いの課題は、当日試験される部屋に行くまで分からないので、共通歌唱教材の何が出て来ても動揺しないように、いつも課題曲をランダムに口ずさんでいました。新曲視唱は、コールユーブンゲンやソルフェージュの本などで独学して練習していましたが、練習量が充分でなかった為本番ではかなり緊張していくつもミスをしてしまいました。歌の先生などをお願いしてしっかり練習を積み、慣れておくことをお勧めします。

【おわりに】

教員採用試験は、準備しておく課題も量も非常に多いので本当にしんどいと思います。しかし、「やらなければ」と義務に思うと非常にストレスになってしまいますので、苦しいときには、「教師になったらこうしたい」「こんな先生になりたい」といった初心のポジティブなイメージを保つように心がけ、今頑張っていることはその夢の実現の為に必要な事であり、自分自身がより素敵な人間になるための自分磨きなのだと思ふことで、楽しんで努力できたように思ふます。常に前向きに考える事と、困ったり悩んだりした時には一人で考え込まずに、先生や仲間に相談したりすることで重圧を解放し、うまく自分をコントロールすることが、長い準備期間を乗り切るコツだと思ふました。この私の体験談が、少しでも後輩の皆様のお役に立ちましたなら幸いです。皆さんが楽しみながら良い結果を出せますよう願っています。

T. T. さん（社会科教育コース） 滋賀県中学校（社会） 合格

【はじめに】

私が「教員になる！」と強く決心したのは教育実習を終えてからです。1、2回生の頃は正直自分が教師になるということを現実的に捉えられていませんでした。そんな中、教育実習で実際に授業をするなど教師としての仕事の一部を経験し、教師という仕事の本当の魅力に気づくことができました。

そして、私が実際に教員採用試験に向けて本格的に勉強を始めたのは11月からです。きっかけは教員養成合宿でした。友人に誘われての参加だったのですが、その年の採用試験に合格された先輩の話や、すでに現場で働いておられる先輩のお話などをたくさん聞くことができかなりモチベーションが上がりました。また、その合宿中に友人とともに自分のなりたい教師像やどうして教師になりたいと思ったのかなどと熱く語ったことを今でも覚えていますし、結果的にはそこで話した内容をそのまま採用試験の面接でも話しました。

【勉強スタート！ 11月～3月上旬】

合宿から帰ってきたらもう採用試験に向けて一直線！と行きたいところだったのですが、私は3回生の12月まで現役で部活をしており、その練習が週4回ありました。また、引退してからも3月上旬に行われる大きな大会に出場するため週3回のペースで練習に参加していました。なので、その大会が終わるまでは部活やバイトはこれまで通りこなしつつ授業のない空きコマなどの空いている時間を利用して少しずつ勉強していました。そして、勉強と並行して週に1回程度の割合で地域の中学校にスクールサポーターとして行っていました。

勉強に関しては、まず教職教養と専門教養から始めました。なぜこれらから始めたかということ初めて参考書を見たときにほとんど理解できなかったからです。教職教養は1,2回生の頃の授業でやっているはずなのに全然その知識が定着しておらず、また1から覚えなおしました。なので、1,2回生時の授業(特に必修)のノートやプリントはきちんと保管しておいたほうがよいです。専門教養も、私は高校時代に世界史を選択していたので世界史の問題ならできたのですが、日本史や地理の問題がほぼできませんでした。だからこの二つ、特に日本史を中心に勉強しました。

【勉強集中！ 3月下旬～7月】

大会が終わってからは、自分の中で教採モードに切り替えて毎日図書館に来て勉強するようになりました。そして、4月からは実践論が始まると同時に友人とグループを作って集団討論の練習もするようになりました。また、5月くらいになると図書館に行けば周りの友人も集中して真剣に勉強に取り組んでいたため、頑張っている友人の姿を見て「自分も頑張らなければ」と刺激をもらいながら勉強していました。この頃も勉強の中心は専門教養と教職教養で、6,7月くらいになると一日の勉強時間のうちの半分くらいを集団討論の練習に使うことも当たり前でした。

ここからは小論文や面接などのそれぞれの項目についてどのように勉強していたのかについて書いていきたいと思います。

・1次試験

<集団面接> (1分間スピーチ、集団討論、意見発表)

1次試験の配点のうちの4割を占めるこの集団面接はかなり時間をかけて練習しました。前に書いたようにスタートは4月ごろだったのですが、最初は右も左もわからない状態で全員が本当にこのやり方で合っているのか？という不安を抱えながら練習していました。しかし、練習を重ねていくうちに徐々にコツをつかんできて5月下旬くらいからは先生にも見てもらいながら本番さながらの練習をしていました。

6、7月はもう一日のほとんどをこの面接練習に費やす勢いで空いている教室を借りて取り組んでいました。練習方法としては集まった人の中から7人が面接、ほかの人は試験官役となり1分間スピーチ→集団討論(20分)→意見発表という流れで、一通り終わったら試験官役の人が一人ひとりに対してコメントし、次は交代してまた同じ流れをする。という感じでやっていました。また、見ている人は付箋にそ

れぞれの人に対しての良い点と改善点を書いて、終わったら渡すという方法でやっていたので、このコメントがとても役に立ちました。

1 分間スピーチや意見発表ではほかの人の良いなと思った意見をもらうことができたので、とにかくいろんな人と数をこなしました。このように集団面接の練習は一人ではできないので、周りの友人と協力しあいながらお互いに成長していくという形が理想的だと思います。

<小論文>

小論文に関しては、実践論で先生に書き方の型を教えていただき、それを軸にしてさまざまなテーマに関して書いていました。正直、試験の1か月前くらいまではほかの勉強に追われ小論文は後回しにしてしまっていたのですが、このままではだめだと思い友人とどこかの教室を借りてきちんと時間を計って練習しました。時間が終わったら書きあがった小論文をみんなで回し読みしお互いに批評しあっていました。

<専門教養>

専門は特に日本史を中心に大学受験用の参考書や問題集を使いながら勉強していました。センター試験のような選択式ではなく記述式なので、中途半端な知識では乗り越えられないと思いとにかくひたすら問題を解きまくって知識を詰め込みました。また、学習指導要領についても配点が少ないとはいえしっかり勉強しなければいけないと思い、社会科の目標や地理・歴史・公民のそれぞれの目標など重要な点だけは丸暗記しました。

<一般教養・教職教養>

一般に関してはほとんど勉強していません。自分がセンター試験を受けた科目の問題は確実に取って、ほかの問題は1から勉強を始めても間に合わないのでできなくてもいいやという気楽な気持ちで試験を受けました。その代わりに教職教養は絶対に全問正解するという気持ちで、必死に勉強しました。全国の採用試験の問題が載っている参考書を使ってひたすら問題を解きました。また、友人と勉強の合間に休憩しているときなどに問題を出し合ったりしながらクイズ感覚で楽しみながら勉強していました。

・2次試験

<模擬授業>

1次試験が終わってから、すこしずつ指導案を考えたりして8月に入ってから各ゼミ室や教室を借りて友人と集まって模擬授業をするようになりました。この時、中学校を受ける友人だけでなく小学校を受ける友人の授業も見て、自分にはないものを感じながら参考にしていました。

<個人面接>

これも8月くらいから練習し始め、過去問などを参考にしながら様々な質問に対して自分ならどのように対応するかを考えていました。ここでは、1次試験の時の意見発表の練習がとても役に立ち、あまり新しく質問に対する答えを考える必要はありませんでした。

【おわりに】

自分の採用試験のための勉強期間を振り返ってみると、やはり周りの友人がいたからこそできたのだと痛感します。よく「受験は団体戦だ」という言葉も聞きますが、教採に関しては本当にそうだと思います。そして、周りにこれだけ同じ志を持った意識の高い友人のいるこの滋賀大の環境は勉強をする中で一番の武器となると思います。ぜひ、この環境をフル活用してみんなで切磋琢磨しながら教採を乗り切ってほしいと思います。

そして、ここまでの文章を見てみるとめちゃくちゃ勉強したように見えるかもしれませんが、実際はそんなことはなくて、勉強の途中に生協で友人とアイスを食べながら談笑したり、勉強が終わってから飲みに行ったり、1次試験が終わってからは海に行ったりとそれなりに遊びながら勉強していました。毎日毎日勉強ばかりしてもしんどいですし、毎日がつまらないと思います。なので、少し楽しみなことも織り交ぜながら勉強すると毎日に活気が出てより充実した毎日が過ごせると思います。

勉強期間の中では不安になることやしんどいと思うこともたくさんあると思います。しかし、そんな

時に周りの友人に相談してみると意外にもみんなも実は同じような悩みを持っていたりするものです。一人で抱え込まずに悩みや不安を共有しながら全員でこの期間を乗り切ってください。一生懸命取り組みれば必ず結果は出ます。頑張ってください！

S. Hさん（環境教育コース）

滋賀県小学校 合格

【はじめに】

私は教師になるために滋賀大学教育学部に入りました。しかし、本当に「教師になりたい!」と思ったのは、子どもたちとふれ合う機会を得てからでした。それまでは、ただ漠然と「教師になればいいかな・・・」と考えていた節がありました。しかし、教育実習や子どもと関わるバイトの中で、問題を抱える子どもや勉強に悩まされる子どもに出会い、このような子どもたちを少しでも助けたいと思うようになりました。そして、この気持ちこそが私に教員採用試験を頑張る気力をくれたと思います。皆さんも「自分だけの教師になりたい理由」を見つけてください。それは教員採用試験をのり切る力になりますし、自分になりたい教師像を明確にするきっかけにもなります。

また、教員採用試験研修合宿などのイベントはどんどん参加していくとよいと思います。合格者の方から様々なアドバイスがもらえます。また、自分と同じ志を持つ仲間と出会うことでモチベーションも上がります。

ここからは私が教員採用試験までに行った勉強法を書いていきたいと思います。しかし、一番良いのは自分にあった勉強法を見つけることです。ですから、そのための参考にしてもらえれば良いと思います。

【一次試験】

○専門教養

「小学校全科ランナー」をノートに丸映ししていました。効率を考えるとあまりよくないやり方ですが、「何をしたら良いかわからない」、「どこから手を出したらいいかわからない」という場合は、とりあえず教科ごとにノートにメモを行うだけでも良い勉強になります。次に「滋賀県の小学校教諭 参考書・過去問」などを使って、実際に問題を解き、間違っていたところを確認し、復習していました。一般教養や教職教養と違って、専門教養は差がつきやすいため、重点的に学習するとよいと思います。

○一般・教職教養

「教職教養 30日完成」、まずこれをしましょう。簡単に進められますし、内容がかなり絞られているため、理解しやすいと思います。そして、より詳しい内容は「教職教養の要点理解」でカバーしていきましょう。最終的には「滋賀県の教職・一般教養 過去問」で実践・復習を行ってあげれば良いと思います。先ほども書いた通り、この範囲は全体的にみんな点数が高く、差がつきにくいようです。しかし、手を抜くと致命的な欠点になりかねないので、ちょっとした空き時間（通学時間・寝る前）に少しずつ勉強しておくと思いいます。また、出題範囲に傾向があるので、過去問を見て、どんな問題が毎年出ているかをチェックしておくことも重要です。

○小論文

教職実践論に参加しましょう。小論文の書き方から出題傾向に至るまで、詳しく教えてもらえます。また、毎週宿題として小論文を書くことになるので、間違いなく力がつきます。

○集団面接

とりあえず回数をこなすことが大切だと思います。相手の意見を聞き、その意見を踏まえた上で自分の意見を発言していくことは何度も練習しないとできないと思います。また、練習中に「この意見、いいな!」と思ったものはどんどん取り込んでいきましょう。テキストなどは教職実践論でもらったものを最大限活用することが大切です。「それだけでは不安・・・」という人は、「教員養成セミナー」を読んでみると良いと思います。小論文や面接への対策はもちろん、教育時事についても書かれており、有用な情報を多く掲載しています。

【二次試験】

○模擬授業

小学校は教科を選択することが可能で、引き直しも一度だけなら認められます。しかし、学年まで選択することは不可能なので、ひとつの教科に絞って学習することが効果的です。皆さんは3回生の教育実習時に、模擬授業をしたと思います。その時の経験を最大限に活かしてください。模擬授業を行って

いるときは1人ですが、目の前に生徒たちがいるように生き活きと授業を行ってください。内容も大切ですが、そのような姿勢が評価されます。

○個人面接

内容はそこまで難しくありません。しかし、3対1で質問を投げかけられるので、非常に緊張します。落ち着いて自分が何を話したいかをうまくまとめてください。これも友達と集まって対策をしたり、教職実践論をうまく活用してください。

○実技

滋賀県は音楽実技と水泳実技になります。水泳は自由型なので、どんな泳ぎ方でもかまいません。しかし、足をついてしまった場合、失格になるので泳ぎ切れるようにしておいてください。次に音楽実技ですが、ピアノ・リコーダー・歌の3つです。出題範囲が限定されるので、しっかりと練習すれば問題ありません。まったく経験がない場合は、音楽に詳しい友達や音楽棟の先生にどんどん質問していきましょう。

【おわりに】

教員採用試験に挑むにあたって、なるべく早く一緒に頑張る友達を見つけてください。同じ目的を持つ友達とともにいることは、モチベーションの向上にもなります。また、自分の知らない情報を提供してくれることもあります。勉強に力を入れることも大切ですが、ときには友達とおしゃべりして息抜きをしてみてください。こうして、気持ちを入れ替える時間をつくると頭がすっきりし、勉強にもメリハリが生まれます。最初にも書きましたが、自分なりの勉強法を見つけてください。そうすれば、自然と勉強、ひいては生活にもメリハリが生まれ、質の高い学習ができるはずです。

最後となりますが、教員採用試験はゴールではありません。スタートです。教員採用試験の勉強を通して、自分がどんな教師になりたいのかをしっかりと考え、そのスタート地点に立てるように頑張ってください！！

1. Y. さん（生活・技術教育コース）

大阪府小学校 合格

【はじめに】

私は最初、幼稚園教諭になりたいと考えていましたが、教育実習に行って「自分は小学校の方が合っているな」と感じ、小学校教諭になることを決意しました。しかし、家から学校が遠く、また大阪府小学校を受ける友達が周囲に少なかったため、主に一人で勉強を進めていました。他の方とは取り組み方が違うかもしれませんが、これから試験を受ける方々にとって少しでも参考になれば幸いです。

【大阪府の試験内容について】

一次試験・・・教職教養・一般教養、集団面接

二次試験・・・専門教養、小論文、実技試験（プール・模擬授業）、個人面接

一次試験（7月中旬～）

大学推薦を頂いたため、一次試験は免除でした。

二次試験（8月中旬～9月下旬）

専門教養・・・小学校全科（国・算・社・理）

小論文・・・500字程度

実技試験・・・水泳25m（泳法自由）

模擬授業5分（事前に4教科それぞれの学年・指導内容が指定されており、4種類の題の中から好きなものをひとつ選ぶ）

個人面接・・・約15分

【勉強について】

先ほど述べた通り、私は一人で勉強を進めていく決意でしたが、やはりどういう対策が必要なのかかわからず、不安が大きかったので、東京アカデミーに通うことにしました。3年生の10月から週一回、教職教養と一般教養についての授業を受けました。どういう問題が頻出なのか、どういう形式で問われるのか、どういう知識が必要なのか、などについて、授業を受けながらまとめていきました。これは、教員採用についての月刊誌などにも載っているため、まずは試験内容の傾向をつかむことが大切だと思います。

大学推薦の可否結果が6月までわからなかったため、それまでは教職・一般教養をきちんと勉強していました。特に一般教養は、小学校全科と内容が似ていることもあり、国数社理の勉強には力をいれました。過去問を解いて、自分の間違えた問題やその知識をまとめたノートを作り、正解した問題は無視して、徹底的に不正解問題の反復に努めました。

【試験対策について】

○専門教養

各教科の学習指導要領が必ず1問ずつ出ているため、「小学校全科ランナー」を使用し、赤シートで穴抜きした指導要領の文章をひたすら暗記しました。また、「教員採用試験 小学校全科（東京アカデミー）」を使用して過去問を解き、問題に慣れていくことを優先しました。1つの問題を正解するのに、5、6個の知識事項が必要なので、幅広い知識の習得に努めました。

○小論文

教職実践論の先生に添削していただきながら、とにかく量をこなしました。「時間内に自分の言いたいことを時数以内にまとめる」のは中々難しく、2日に1回は必ず時間を計って、過去の小論文を練習していました。

○実技試験

水泳は苦手ではなかったため、1度だけ泳法確認をしにプールへ泳ぎに行きました。

模擬授業は、内容が発表されるまでは対策をしていませんでした。二次試験の3週間ほど前に内容が発表されたため、算数の「繰り下がりのある引き算」についての模擬授業を考えました。5分という短

い時間で指定された授業内容、自分の教師としての教え方や児童への配慮、進行の仕方などを表現しなくてはならないので、何度も練習し、大学の先生方にも見ていただきました。

○個人面接

面接対策には一番時間をかけたかもしれませんが、私はもともと人前で注目されるのが苦手で、高校・大学受験も一度も面接を体験したことがありませんでした。東京アカデミーの面接授業を何度も申込み、とにかく対人練習の数をこなしました。経験を積んでいくうちに、緊張はしていても、きちんと自分の言いたいことを伝えられるようになりました。面接で大切なことは、「はきはきとした態度で」「簡潔に話す」ことだと思います。

【大切にしてほしいこと】

小論文や面接では、教育観や現代の教育問題、また「自分自身の教師としての考え」を問われることが多いです。そしてそれらは一朝一夕で身に付くものでも、軽々話せるものでもありません。自分はなぜ教師になろうと思ったのか？どういう教育がしたいのか？現場でどう子供たちを育てていくのか？自分の根底にあるものをもう一度見直す必要が出てくると思います。私は面接シートで自己PRを書くときに、自己分析の大切さと難しさを強く感じました。普段から友達と教育について話す、教職教養を学ぶ、本やニュースを見るなどして、自分の考えを深めることを心掛けてほしいです。そういった価値観の厚みは、その人自身の人間力につながっていき、確固たるものになっていきます。

【おわりに】

勉強は一人でもできますが、人間関係を築くことは一人ではできません。支えあい助け合う友達や、家族・先生方とのつながりを大切にしながら、自分に自信をもって試験に臨んでほしいと思います。頑張ってください。

M. Y. さん（言語教育コース） 滋賀県高等学校（英語） 合格

◆はじめに

私は留学のために半年間休学していたので、同回生より 1 年遅れて採用試験の準備を始めました。4 回生時の母校実習を終えてから、高等学校教員に志願することを決めました。高等学校は倍率も高く、難関であることは分かっていたし、友人たちの苦しむ姿を見ていたのにも関わらず、本格的に試験勉強を始めたのはゴールデンウィーク明けからでした。焦っても無駄だと割り切って本当に短期間、集中して勉強しました。かなり短期集中型で参考になるかわかりませんが、みなさんが自分の勉強法を見つける手立てになれば幸いです。

◆一次試験（一般・教職・専門教養、集団面接、小論文）

①一般・教職教養

私は中高一貫校に通っていたため高校受験の経験もなく、さらに大学も推薦入試で入学したので、いわゆる受験勉強というものは今回初めて取り組みました。

残された時間は少なかったので効率的に勉強し、得点できる策を考えました。まず一般教養は範囲が広く一から勉強することは不可能だと考えたので、高得点を取ることはほぼ諦め、専門教科である英語と得意な国語のみで得点することにしました。大学入試の時にしっかりと受験勉強に取り組んだ人であれば、それほど心配のいらぬ分野であると思います。重要なのは教職教養です。誰もが一から勉強する内容ですから、漏れなく勉強すれば確実に得点することができますし、努力が形に表れやすいので勉強のモチベーションにもつながります。私は一足先に試験に合格した同回生に教えてもらった「東京アカデミー セサミノートシリーズ」を使って何回も何回も問題を解きました。最初は間違いだらけだったノートも徐々に正答率が上がり、目に見えて知識が身につけていることが実感できました。また、採用試験模試も 1 回だけ受けました。本番までまだ時間がある時期にこの模試があるので、あまり準備ができていない段階で受けると自信を無くすと思ったからです。学外でも模試はありますが、自分のモチベーションや状況に合わせて受験することをお勧めします。

②専門教養

免除（TOEIC で専門教養試験免除に相当する点数をすでに取得済）

③集団面接

集団面接は一人では練習できません。大学で開講される「教職実践論」を受講し、ほかの受講生と一緒に練習を重ねました。

面接はまず一分間スピーチから始まります。高等学校の場合、テーマを指定されることはなく一分間の自己アピールになります。一分間におさまるように内容を考え、何度も練習しました。内容はできるだけ簡潔に、かつ自分が教師になった時の決意を込めるようにしました。また話す態度も気をつけながら、たくさんの人に聞いてもらってアドバイスをもらい、笑顔ではきはきと話せているかチェックしてもらいました。

集団討論・個人質問について、私は実践的な練習はあまりできませんでした。少ない練習の中で自分の意見を広げるために、思い付いたことはすべて書きとめました。実践論で配布される過去問集は本当に役に立ちました。他府県の問題でも練習に利用し、どんなジャンルの議題でも対応できるように準備しました。個人質問もすべての過去問に目を通し、自分の考えを書きとめました。試験本番でも大体は過去問から質問されました。ただ、試験当日にベストを尽くせるように、ギリギリまで自分の考えを整理し、他の受験者の意見も余裕を持って耳を傾けられるようにしました。

③小論文

この練習は教職実践論の時間のみでした。クラスの先生に毎回添削してもらい、自分の小論文の精度をあげました。私は文章を書くことは得意なので、ここは高評価を頂けるように練習をしました。小論文を書く際は必ず時間を計り、いかに速く意見をまとめあげるか考えながら毎回書きました。小論文は

書けば書くほど成果が出ます。できればゼミの先生などにも見てもらうことがいいと思います。

◆二次試験（指導実技・個人面接）

一次試験終了から合格発表までは2週間ほどありますが、間髪をいれず二次試験の準備に取り掛かってください。

①指導実技

指導実技のための準備はとにかく学習指導要領を読み込むことです。また教科の専門知識は十分すぎるということはありません。どのような問題形式が出されても、指導すべき内容をすぐに判断できるように指導要領を頭に叩き込んでください。私は指導内容に合わせて授業内容を考えておきました。実際の実技は7分程度ですが、全体の授業内容や、英語の場合は和訳英文の解説についての指導案を提出しなければなりません。ここで専門教科の知識を問われます。

約7分間の指導実技は20名ほどの試験官の前で行います。誰も応答してくれませし、笑顔も見せてくれませし。ここで見られるのは知識の有無というよりは、教師として生徒にどう対峙するか、という態度の面だと思ひます。大きな声ではきはきと笑顔を忘れずに授業する練習をしてください。目の前に生徒がいると想定し、一人の教師として授業を進める演技力が必要になります。

②個人面接

これも過去問をすべて網羅し、準備しておきました。私は完璧に答えようとせず、試験管に自分のことを知ってもらおうという考えのもと、面接試験に臨みました。一次試験でも二次試験でも、自分の意見をまとめたノートは役に立ちました。自分の理想の教師像や教育をまとめておくと、それが軸となってどんな質問にも対応でき、小論文にも応用できます。自分に正直に、ありのままの意見をはっきりと述べることができれば問題ないと思ひます。

◆おわりに

教員採用試験は長く孤独な戦いだと思ひます。この中で重要なのは、試験に合格しようという気持ちよりも、自分が教師になった時のことを具体的に考えることだと思ひます。膨大な量の教職教養や専門教科の勉強は確かに辛いと思ひます。しかし、考えてみてください。合格すれば4月には一人の教員として教壇に立つこととなります。その時に今勉強している知識が無かったらどうなるのでしょうか。そう考えれば試験勉強というよりも教員になる準備期間として前向きに頑張ることができると思ひます。

現在の採用試験は人物重視の選考試験です。試験準備は知識だけでなく、自分の人間性をいかに深く柔軟性のあるものにしていくかも大切だと思ひます。自分が受験する都道府県の求める教師像をしっかりと理解したうえで、実際に教員になった時のことを想定した準備を進めてください。応援しています。

R. Y. さん（生活・技術教育コース） 大阪府私立中高等学校（技術・国語） 合格

○はじめに

私は大学に入学した時から教員になるなら私立の学校に就職しようと決めていました。公立の学校には就職するつもりがなく私立の学校の募集が無ければ、一般企業に就職するつもりだったため少しの間就職活動もしていました。公立の採用試験対策を一切せず、私立の教員採用試験と就職活動をしていたという点では多くの方たちと異なる就職するまでの体験ですが、少しでも私の体験が皆さんの役に立つことが出来れば幸いです。

○私立の教員採用試験を受けるまで

I. 動機

まず、私立の教員採用試験を受ける前に明確にしておかなければならないことがあります。それは私立の教員を志望する動機です。私は3つの学校の採用試験を受けましたが、どの学校でも集団面接と最後の校長を交えた面接で何故公立ではなく私立を志望するのかということを知られました。

人によって様々ですが、私が私立を志望した動機の一つが憧れです。私は兵庫県の私立高校に通っていました。その陸上部の顧問（私の体育の教師）は、部活を通して生活態度や物事に取り組む姿勢を身につけさせ生徒を育ていつでも部員と一緒に日本一を目指していました。その先生の指導の中にあるストイックさに憧れを感じました。そのストイックさは、私立独特の赴任先が変わらないという環境の中でずっと同じ部活を見続け長い時間をかけて積み重ねてきたものがあるからこそ出せるものだと思います。私もその先生のように部活を通して、自分の特徴をいかした指導をしたいと思い私立を志望しました。他にも色々動機はありますが長くなるので省略します。

II. 学校探し

私立の教員採用は学校が独自に行っているため、実施日は4月から募集する学校もあれば9月から募集開始する学校があったりと、バラバラです。そのため、前もって自分が就職したい学校の教員採用に関する情報を調べておく必要があります。また、受ける都道府県や学校によっては受験条件や応募資格があるので注意が必要です。例えば、兵庫県で私立の教員になるためには8月に実施される私立教員適性検査を受けなければいけません。他にも、中学と高校の免許を持っている者に限る（片方では受ける資格がない）ことや、部活において全国大会レベルの指導をすることができる者などのように、各学校が出す条件をクリアする必要があります。もちろん、教員免許をもっていることだけが条件の学校も多くありますが、教員募集を見て応募する際は、まず募集要項をしっかりと見て自分に受ける資格があるかどうか確認することが重要です。

また、自分に合う学校を見つけることも私立の教員になるうえで重要なことです。私立の学校はそれぞれ特徴や伝統があるので、求められる人材も各学校によって様々です。そのため、学校側が求めている人材と自分が就職したいと思っている学校が合っているかどうか判断することが大事です。

○私立の教員採用試験

I. 大まかな流れ

学校によって様々ですが大体は①書類選考②専門教科の筆記試験③集団面接、模擬授業④校長面接といった流れです。書類選考と面接だけの学校もあります。

II. 専門教科の試験

これに関しても学校によって様々です。私の受けた試験は現代文2題と古典と漢文の筆記試験という点では同じでしたが、問題の内容は学校によって違いました。センター試験を筆記試験にしたような内容の試験と、各題に2問ずつ問題があり全題共通で要約と一ヶ所だけ引かれている棒線に関する問題でした。一般教養試験が無い代わりに専門性の高さを私立の教員採用では見られます。

専門教科に関する対策は4回生の5月から始めました。普通に考えれば対策を始めるのが遅すぎますが、私が本気で教員を目指したのがこの時期だったので取り敢えず始めました。現代文に関する対策は毎月6~8冊ほど本を読んでいるので、これを対策代わりにしていました。古典・漢文に関しては、忘れていたことが多かったため参考書を1冊に絞ってひたすら何回も繰り返し読み返していました。1冊に

絞ることで何度も読んでいるうちに同じ内容を何度も読むことになるので、効率よく忘れていたことを思い出して覚え直すことができました。時間を決めて勉強するのが苦手だったので、バイトの行き帰りの電車の中やちょっと空いた時間などに勉強していました。

専門教科の試験は1教科だけで勝負するので、とにかく点数をとらなければなりません。そのためにも、自分の苦手な点数がとれない分野が何であるかということを理解し対策することが合格につながると思います。また、この勉強は模擬授業対策にもなります。

III. 集団面接と模擬授業

集団面接で聞かれた内容はどの学校も大体同じでした。一番時間をかけて聞かれた内容は、先述した何故公立ではなく私立の教員を志望したのかということと、何故たくさんある私立学校の中でここを受けたのかということでした。このことは、どこの私立学校を受けても聞かれることなので、受ける学校の校風や伝統を調べあらかじめある程度何を言うか考えておけばいいと思います。

まわりには知らない人しかいないので緊張しますが、大事なことは自分の志望動機と学校を選んだ理由を明確にしてきちんと最後までいいきることであって、上手に受け答えすることではありません。いくら饒舌ですらすらと上手に受け答えをしても、中身の無い話をしていたら評価されません。学校の先生が面接をしているので、いくら詰まってしどろもどろになっても言いたいことを言いきるまで時間いっぱいまで待ってくれます。緊張して上手に話せなくても焦らず最後まで自分の意見を言いきったら良い結果に結び付くと思います。まずは、自分の意見を最後まで諦めず言い切る練習をして自分の考えの軸となることを考えたらいいと思います。何度も言うようですが、上手な受け答えをする必要はありません。自分の意見をきちんと面接官にぶつけることが大事なことです。

模擬授業は、公立の教員採用と同じだと思います。その場で単元を教えられ模擬授業をします。模擬授業で大切なことは、その単元の内容をきちんと理解していることをアピールすることだと思います。その単元の要点をおさえ、無難にまとめることで乗り切れると思います。あとは恥ずかしがらないことです。

IV. 校長面接

校長面接ではもう一度確認といった感じで、何故公立ではなく私立の教員を志望したのかということと、何故たくさんある私立学校の中でここを受けたのかということ聞かれました。ここでも、自分の意見を最後まで言い切ることが大切です。他は、学校の方針を聞いてきちんとその学校のことを理解しているか確認されました。その後は、もちたい部活はあるかということのように採用されて実際に働く時の話をしました。校長面接は、面接試験というよりも最後の確認をしているような感じでした。

V. 教員採用試験の期間

公立と違い私立の教員採用は試験と面接を合格するだけでは終わりません。採用されてから人間性やその学校に適しているかどうか1年~3年かけて見られます。そこでみとめてもらえれば退職するまでずっと雇用してもらえます。それまでは契約更新が必要な契約教員（常勤講師・非常勤講師）です。この私立と公立の違いは大きいと思います。

○おわりに

私は教員採用と就職活動を通して、何かを始めるときに遅すぎるということはないと感じました。何かすることが決まったら、その時に始めたらいいだけだと思います。証券会社の内々定を4月にもらっていたので、私自身教員採用の応募期間ぎりぎりまで教員になるかどうか悩みました。そんな時に小学校の時の友達の一言をきっかけに教員になることを決めました。その日のうちに履歴書と出願票を書いて締め切りぎりぎりに出願しました。そこから3週間、本気で教員採用に向けて取り組みました。私自身部活を10月の引退までずっとしていたので、時間に余裕はありませんでした。しかし、時間に余裕がないことを言い訳にしたくなかったので、はっきりとした教員になった時の目標をもって勉強しました。限られた時間の中で自分の弱点を見つけることが合格につながったと思います。

今、教員になるかどうか悩んでいる方がいれば思いっきり悩んでください。悩んだ結果教員になろうと思ったなら、教員になると決めた日から本気で教員採用の対策に取り組んでください。応募期間が過ぎていない限り間に合うので大丈夫です。何かを始めると遅すぎることはありません。教員になると決めたのなら、その瞬間から本気で取り組んでください。焦るかもしれませんが、そのままいいので自分のペースを守って頑張ってください。応援しています。

K. W. さん（理数教育コース）

京都府小学校 合格

はじめに

私は、京都府小学校を受験しました。教師になりたいと考えだしたのは、高校生の時だったと思いますが、具体的に小学校を受験しようと思ったのは、3回生の秋ごろでした。もともと中学校を受験しようと考えていましたが、たまたま基本実習の時に附属小学校に行ったことで気持ちが変わりました。

京都府の教師力養成講座に参加させてもらっていたので、あまり参考になるかはわかりませんが、私なりに書いていきたいと思います。

採用試験まで

3回生の時に基本実習があり、また教師力養成講座を見据えて、教員養成サポートセミナーに行っていました。ただ、3回生の冬まではほとんど何もしていなかったと思います。私は4回生の12月まで部活もしていましたので、特に採用試験のことは考えていませんでした。

3回生の2月まではそのような感じでしたが、そこから教師力養成講座が始まり、忙しい日々になりました。教師力養成講座では、子どもたちと接したり、授業をさせていただいたり、現場の先生方の仕事の手伝いをしたりと、たくさんの経験をすることができました。また、毎週水曜日の夜に講義もあり、時には初任者研修と同じぐらいのレベルの内容のお話を聞くこともありました。

その教師力養成講座が6月まで続き、5月には母校の高校実習にも行ったので、採用試験本番までの約半年はあっという間に過ぎました。

一次試験（面接：7月14日前後、筆記：7月21日）

○面接試験

教師力養成講座により筆記試験は免除になりました。ですので、一次試験は、面接官2人12分間の個人面接のみでした。そこでは、大学4年間の経験や小学校ボランティアでの経験などを聞かれました。自分の経験をありのままに話すということを心がけました。

ただ、逆に言うと筆記が無い分面接だけで判断されるということです。12分という短い時間でどれだけ自分をアピールできるかが大切です。

二次試験（300点）

○実技試験（8月20日前後：体育25点、音楽又は図工25点）

・体育

京都府の小学校試験の体育では、ハードル走、マット運動、バスケットボールの3種目がありました。体育がとても苦手なので一次試験が終わったらすぐに練習をし始めました。それぞれ一生懸命練習し、精一杯試験でやりきればいいと思います。

・音楽

もう一つの実技は音楽のピアノか図工の絵画の選択でしたので、私は音楽を選択しました。小学生のころにエレクトーンを習っていたので、得意な方でした。バイエル5曲の中から1曲を選択、共通歌唱教材24曲から3曲を選択し弾き歌いという内容でした。この試験では、苦手な人は、一番易しい曲をすればいいと思います。そして、大きな声で笑顔で歌うということを意識すれば良いと思います。

○面接試験（8月27日前後：個人面接150点、教育実践力テスト100点）

・個人面接

二次試験の個人面接は、面接官3人15分間でした。ここでは、一次試験のときよりも具体的な質問が多かったです。しかし、やはり自らの経験を話す内容が多かったです。

・教育実践力テスト

教育実践力テストには模擬授業と集団討論があります。

京都府の場合、一次試験の合格通知と共に模擬授業のお題が送られてきます。ですので、100パ

ーセントの模擬授業を行うことができます。私は、ゼミの先生やその他の大学の先生、友だちなどいろいろな人に見てもらい、また児童役をする練習も行いました。ここでのポイントは、実際の授業に近づけることです。板書の書き方やノート指導、発問や個別支援など、普段ボランティア先の小学校で見せていただいているやり方で行いました。

集団討論は、京都府では2年前から始まったので、年々やり方が変わっています。具体的な対策などは難しいかもしれませんが、自分の芯になる考えをしっかりと持ち、他人の意見を尊重しながら進めていけばいいと思います。

おわりに

採用試験の内容を長々と書きましたが、教員採用試験は自分の経験から、どのようなことを感じているのか、どのように考えるのか、自分がどんな人間なのかを伝えることだと思います。もちろん、それぞれの試験に向けて対策は必要です。筆記を受けていないので何とも言えませんが、それも大切です。

ですので、大学4年間でまずはいろいろな経験をすることだと思います。私は部活で様々な役職を経験したり、趣味のスポーツ観戦や映画鑑賞をしたり、アルバイトをしたりしました。どんなことも自分次第でプラスになると思います。

また、もう一つ大切なことは、メリハリです。やるべき時に集中してできれば、短い時間の中でも、効率の良い勉強ができると思います。

京都府を受験する人はあまり多くありませんし、なかなか共に勉強できる人は多くないですが、4回生はみんな同じ時期に頑張っているの、みんなで頑張りたいと思います。また、滋賀大には頼れる先生方もたくさんいます。

あまり参考にならないかもしれませんが、採用試験までに自分を磨き、自分を全力でアピールできるように頑張ってください！